

つくば3Eフォーラム 外部評価結果概要

I 3Eフォーラムの2015（H27）年度から2020（R2）年度までの活動について

(1) 目標達成に向けた活動の進捗を評価してください。

目標：2030年度までにCO2排出50%削減に加えて、筑波研究学園都市の機関、研究者、自治体の連携、それを実現するための筑波大学のハブ機能の強化、も含めてお考えください。

1 十分に進捗 2 あまり進捗していない 3 全く成果が見えない 4 その他

【結果】 十分に進捗 ⇒ 1、あまり進捗していない ⇒ 1、その他 ⇒ 1

- 3Eフォーラムの活動自体には高い評価を与える。
- CO2排出50%削減につながる活動については、十分な進捗があったとは評価できない。
- CO2排出50%削減は3Eフォーラムだけでは到底達成できるものではない。
- 結論としては、活動に対しては、満足できる進捗があった。

(2) 目標達成のための実施体制・方法が適切であったかどうか評価してください。

1 充分適切 2 適切であった 3 工夫の必要があった 4 その他

【結果】 適切であった ⇒ 1、工夫の必要があった ⇒ 2

- 人的資源や予算からしてできることは限られているが、工夫の必要があったと評価する。
- 毎年度開催するアドバイザリーボードにおいて評価を受け、コメントを引き出すことができているならば、今フェーズの途中で新たな方策を見い出せ、一部は実行できたかもしれない。
- 筑波大学からの支援があるものの、活動の多くはボランティアで推進されていることから、工夫の必要はあったと思われるが、実施体制・方法の適切性を否定するものではない。

II これからの3Eフォーラム活動について

(1) つくば3Eフォーラムの活動を今後も継続するべきかについて、ご意見をお願いします。

1 継続 2 継続不要 3 その他

【結果】 継続 ⇒ 2、その他 ⇒ 1

- 3Eフォーラムの活動は第2フェーズまで続き、一定の使命を果たした。
- 活動が途絶えると再編は困難なので、3Eフォーラムの枠組みを起源として、2021年度から直ちに活動を始めることを推奨する。
- 継続する際は、最新の情勢を踏まえて、目標と実施体制を再構築して新たなステージに入ることを模索すべきである。

(2) 継続が必要と考えられる場合、つくば3Eフォーラムが今後何を目標とすべきか、環境エネルギー問題に関する世界情勢の変化や、つくば市の「SDGs未来都市」の選定、“SMILe”の終了等情勢の変化を踏まえて、新たな活動の在り方や具体的な提案（運営体制、関連機関や組織との関係、新規プロジェクトなど）についてご記入ください。

- 3Eフォーラムは、再構築した上での継続が妥当と評価される。
- 外部からの意見であるので、事務局と各TF座長が協議の上、当事者内部の意志として新たな方向を決めるのが再構築を円滑に進める鍵である。
- 筑波大学の事務局には尽力をお願いしたい。

Ⅲ 3Eフォーラムの将来像について

委員長私見

未来社会は、技術革新により機能・効率を徹底的に追及した部分と、心の豊かさを重視した部分が共存するであろう。すなわち、デジタルトランスフォーメーションが進み、Society5.0の構築が実現する社会となる。このような未来社会の構築に向けて、再構築されるであろう3Eフォーラムが、つくば市がSDGs、脱炭素社会のトップランナーになるためのプラットフォームの役割を果たされることを期待したい。

(2021年2月)